

安積遊歩氏紹介

「生きのびるためのデザイン」(ヴィクター・パパネック著)
 が書かれてから30年。この本が予言したとおり
 社会の仕組み自体を再デザインしなければ、
 次世代が存続できない環境になりつつあります。
 「他者の現実を自分のこととして想像する」という
 感性の欠如が、その荒廃を引き起こしていることを
 私達はわかりながら、立ちすくんでいます。

生きのびるということー
 身体だけの話ではありません。
 本当の心のままで、他者と繋がり
 社会に影響を与え、自分以外のものに貢献する、
 そんな時、心は生きのびることが出来ます。
 それは現実を変える力となります。

安積遊歩さんは、自らの葛藤に正面から向き合い
 正直に表現する勇氣を持っています。
 そして他者の心の発露を
 そのままに「聞く」大切さを知っています。
 日々の暮らしに意識的であることが
 豊かな人脈や現実を引き寄せ
 社会への強烈なアプローチになっていくのです。

彼女の生き様に触れた人間は
 自分自身の力を思いだし
 社会デザインへの新たな気づきを得るでしょう。

知足(知足院)美加子



1956年、福島県生まれ。カルシウムを吸収しにくい
 骨形成不全症という障害を持つ。2歳から13歳まで
 に、20回近く骨折を繰り返し、手術を重ねた。20代は
 じめから障害者運動にかかわる。

1983年10月から半年間、障害を持つ人のためのサ
 ービス機関として先駆的なアメリカのバークレー自立
 生活センターで研修を受け、ピア・カウンセリングを
 日本に紹介する。

現在、障害を持つ人の自立をサポートする「CILくに
 たち援助センター」の代表を務める。また、フィリ
 ピンの貧しい村(パンガシナン県マーシン村)に対し
 て奨学金援助を行うNGO団体「LINK」の代表を務めて
 いたが、現在は積極的な活動を停止中。

1996年5月に同じ障害を持つ長女・宇宙(うみ)を出
 産。<安積遊歩氏HP内「自己紹介」より抜粋>

*1994年、カイロ国際人口会議で優生保護法と子
 宮摘出の問題をアピールし改訂への糸口を作った。
 (1996年に改訂され母体保護法と名称を変更)

著書

「癒しのセクシトリップ」(太郎次郎社)
 「車イスからの宣戦布告」(太郎次郎社)
 「女に選ばれる男たち」(共著、太郎次郎社)
 「生の技法」(共著、藤原書店)
 「自立生活プログラムマニュアル」
 (共著、ヒューマンケア協会)

同日p.m.6:30~7:30 九州大学 芸術工学部・511教室(福岡市南区塩原4-9-1)にて
 高年次教養「市民参加の社会デザイン」(近藤加代子准教授)にゲストとして参加・
 講演されます。当日は、一般の方も参加できます(無料)。

エスタスカーサとは

講演会場であるNPO法人エスタスカーサは、障がい者
 のホームヘルプ・ガイドヘルプ事業を中心に活動してい
 ます。現状の公的ヘルパー制度ではできないサポートを
 人と人との繋がりの中で実現し、介助を必要とされる方が
 なじみのある地域の中で自由に生活するための支援事
 業を行っています。

2006年から交流スペースを開設し、子供・障がい者・高
 齢者、ほか利用者を限定することなく、誰もが安心して来
 ていただける福祉サポート空間を作ろうとしています。こ
 の機会に足をお運びください。

<http://www1.bbiq.jp/estasucasa/>
 福岡市南区弥永2丁目17-1
 tel/fax 050-6620-2460

申し込み・問い合わせ:
tomotari@design.kyushu-u.ac.jp
 (092)553-4465 (知足研究室)

<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~tomotari/asakaindex.html>

エスタスカーサへは

大橋駅→バス62番→弥永西小入口 ~徒歩10分
 大橋駅→バス49番→弥永1丁目 ~徒歩15分
 <JR博多南駅> ~徒歩20分

